＜親子コミュニケーション応援編＞

教材番号　　**ｺ—1**

**２**

対象(時間)：概ね２，３歳～６歳児の親　(50分程度)

**「ちゃんとしてね！」で伝わってる？**

**～**

【ねらい】曖昧な表現では子供に伝わらないマンガを通して，子供の気持ちに共感した具体的な言葉かけや対応について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，模造紙，付箋紙，フェルトペン(裏写りのしないもの)，アンケート用紙

アイスブレイク用の用紙

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時　間 | アクティビティの展開例 | 留　　意　　点 | 備　考 |
| : | ○名札付け（来た順に） | ○全員が名札をつける。（ニックネーム可） | ※スケジュールを板書しておく。  ※机は４～５人程度の小グループ |
| ：  (３分) | ○ファシリテーター（学習支援者）  　自己紹介，主旨・ルールなど説明。 | ○和やかな雰囲気づくりを心がける。  ○写真を撮る場合は，前もって許可を得る。  ○「親子コミ」三つの特長(親等の悩みに対応，子供の気持ちを理解し自己を振り返る，具体的な子供との接し方についての情報提供)をファシリテーターが理解した上で，「子供の気持ちに共感した接し方，コミュニケーションの方法を，具体的に考えてみましょう」などと参加者に呼びかけ進める。 |
| ：  (５分) | **アイスブレイク（雰囲気づくり）**  「ちゃんと描いてね！」   1. ファシリテーターの指示で絵を描く。 2. ペアになり，絵を見せ合う。   ③描画した紙を見せて，「ちゃんと」では伝わらないことを話す。（絵の描かせ方を学ぶねらいではないことを押さえる。） | ○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。  ○まず「指示するとおりにちゃんと絵を描いてくださいね」と伝え，以降の指示は簡単なものにする。「月が夜空に出ています。星もあります。下の方に窓のついた家があります。」など。  ○「ちゃんと」という言葉の曖昧さを，他の同様な言葉（「しっかり」，「いい子」等）とともに説明する。 |
| ：  (10分) | ○タイトル，ねらいを読む。 **＜マンガを読んで考えましょう＞**  ○マンガ上段を読む。  ○マンガ下段を読んで考える。  ○設問①②について記入し，話し合う。  ※設問②では吹き出しのセリフも考える。  ※口頭で考えを交流し合う方法もある。  ※時間に余裕がある場合には出されたエピソードを親役，子役になってロールプレイすることで，好ましい関わりに気づく方法もある。 | ○三つの約束＋１（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守とパス有）を知らせる。  ○上段では，曖昧な表現のために，親の思いが子供に十分に伝わっていなかったことを押さえる。  ○下段は，４コマ目で親子共に笑顔であることを押さえ，考えるようにする。  ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく，子供の気持ちや親の気持ちについても考えられるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。  ※ロールプレイをした場合は，その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。 | ※ワークシートは回収しないこと，正解があるわけではないので，自由に書いたり，話したりして構わないことを伝える。 |
| ：  (22分) | **＜考えましょう，出し合いましょう＞**  ○設問③について記入し，話し合う。  ※食事，片付け，遊び，睡眠など好きなテーマについて，あるいはファシリテーターが指定したテーマについて記入する。  ○話し合ったことを紹介する。 | ○設問③について，ラベルワークで行うことが効果的。 ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき，時間短縮の工夫をする方法もある。  　※時間がない場合には，項目を一つに絞って，話しても良い。  ※「付箋紙１枚につき，１つ書く」「簡単で良い」などを伝える。  ○うまくいったこと，うまくいかなかったことなど，同じような経験をしたことがないか振り返り，その時の子供の気持ちも想像する。  ○子供の問題を「性格」でなく，「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。 　※子供への接し方や，しつけについての悩みや疑問， 　ヒントの交流につなげても良い。 | ※話し合うことで安心感が生まれることを分かってもらう。 |
| ：  (５分) | **＜ファシリテーターからの説明＞**  ○参考資料１のグラフ，参考資料２「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介  ○参考資料３「親子のコミュニケーションに生かしてみては」の説明  ※ニコニコサイクルにつながるコツ，ポイントとして押さえても良い。 | ○グラフから子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。  ○資料等を活用し，必要に応じて次の点を伝える。  ・あいまいな表現ではなく，「具体的に」してほしい行動を「動詞」で伝える。  ・何かしながらではなく子供と目線を合わせて話をする。  ・行動の過程をほめ，随時言葉かけをし，少しでもできたらほめる。（人はうれしいときに脳の中に心地良さを感じる物質が出てやる気になる。）  ※イライラサイクルを否定するのではなく，日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし，イライラな関わりが少なくできると良いことを伝える。 | ※図(サイクル)を  見せながら説明  する。 |
| ：  (５分) | **＜学習を振り返りましょう＞**  ○ワークシートに記入する。  ○気付きの共有 | ○すぐにはうまくいかないかも知れないが，できることから試してみることの大切さを伝える。  ※参加者一人一人に感想を聞いても良い。  ※時間がない場合は，目を閉じ，自分自身で振り返る方法もある。  　※ファシリテーターからの感想があっても良い。 | ※ワークシートに無理に記入しなくても良いが，省略はしない。 |
| ： | ○終了・片付け  ○アンケート記入 | ○参加者全員で行う。  ○アンケート記入者から流れ解散 | ※現状復帰 |
| 〈メモ〉 | | | |